

## TRIODE TRV-A300SER



定価 (税別) ¥180,000

**販売価格はお返事します**



### 製品の概要

Triode TRV-A300SER は、TRV-A300SE の後継モデルとして発売されました。メーカー希望小売価格が A300SE の ¥160,000 (税別) から ¥180,000 (税別) に値上がりしましたが、筐体の高級化(縦長から Triode 共通の横長デザインへ)、トランスケースの分離(電源とアウトプットトランスを収納しているカバーを独立化)、ワイヤレスリモコンの装備(音量調節のみ)、MMフォノイコライザーの搭載(トランジスタ方式)などを考えれば実質値下がりと感じられます。

また、TRV-A300SE で「半導体方式(ダイオード)」だった整流回路が「真空管方式(5AR4)」に改まったことで、中低音の厚みと中高音の滑らかさがさらに良くなっています。上写真に小さく写っていますが、上面パネル右手前の小さなスイッチで「無帰還/帰還」が切り替えられます。今回の試聴は「無帰還」で行いました。

真空管は、初段が ECC83 (12AX7) ドライバー段が ECC82 (12AU7) 出力管に 300B が使われています。

入力は、PHONE/1 系統と LINE が 3 系統、で出力は TAPE-OUT が一系統設けられています。入力感度は 800mV と真空管アンプとしては低めで、ボリュームは小音量時の音量調整が簡単です。

発熱は普通、無信号時の消費電力は 125W と真空管アンプとしても普通ですが、最大出力が 8W であることを考えると効率は悪いです。リモコンが付属します。

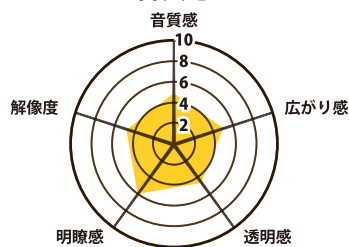
<明>---◆---<暗>

<柔>---◆---<硬>

### エネルギー感



### 音質感



形式	真空管式プリアンプ
入力数	LINE×3、PHONE×1(MM)
出力数	TAPE OUT×1
使用真空管	ECC83×1、ECC82×2 300B×2、5AR4×1
最大出力(Ω)	8W(6/8Ω)
周波数特性	10Hz-50KHz
消費電力(無信号時)	125W(逸品館にて計測)
サイズ/重量	340×315×185(mm)/15kg
付属品	電源ケーブル、リモコン

### 総評

高音の切れ味は悪くないのですが、ざらざらした小さな棘が音に付きまといまふ。今回聞き比べたアンプではずば抜けて価格が安いので仕方がないのですが、それが原因で他の製品と比べると音がざらついていてやや安っぽく感じることがありました。中域はこのクラスの真空管アンプとしては悪くない出来で、滑らかかつ透明な音でボーカルが楽しめます。低音はやや控え目ですが、少な過ぎると文句が出るほどではありません。

同時にテストしたアンプがすべて 50 万円を超えるような高級真空管アンプだったので、それらと比べると TRV-A300SER の音色がやや単調で音楽の表現も一本調子に聞こえてしまったのは仕方ないことです。

ただし、TRV-A300SER の評価を下げた高域のざらつきは使用されている 300B の品質に起因していると考えられますから、出力管を変えると音質は確実に改善するはずで、Triode の製品らしくこの価格で購入できる真空管アンプとしては水準以上の音質に仕上がっていると断言できますし、使われているアウトプットトランスやパーツの基本性能は高いので、真空管を変えるなど独自のチューンナップを行えば音質はがらりと良くなることが予想されます。リモコンが使え、MM 対応フォノイコライザーを装備するなど機能も十分で、入門～中級クラスの真空管アンプとして良くできた製品です。

### 音質テスト結果 PMC PB1i/Signature と組み合わせて



構造の単純な三極管の音らしく透明感が高く、ボーカルの音抜けが優れています。中音は標準的で低音はやや少なめです。ギターはアタックの立ち上がりが少し重く、響きも濁っています。ボーカルも線がやや細い印象できれいな音ですが、表情が少し単調で躍動感があまり感じられません。透明感が高くスイートな音ですが、中低音が少ないので演奏がややこぢんまりとしています。

A300SER で不満を感じるウィークポイントの多くは、使用されている 300B にあると考えられます。A300SER の 300B は真空管の作りがウェスタン 300B とは全く違います。ガラスが薄く、カソード/グリッド/プレート固定もしっかりしていません。真空管をアンプから取り外し指で弾くと、ウェスタンの 300B ならピンと澄み切った美しい音で「鳴き」ますが、A300SER の 300B はピンという、どこかが共振した濁った音で鳴きます。この真空管そのものの響きの違いが再生される音にそのまま反映されるので、TRV-A300SER は高域がざらつき、中低音が細いのでしょうか。アンプの作りは良く、パーツにも良質なものが使われているだけに残念です。しかし、アンプの発売価格を考えるとこれ以上真空管にコストを割くわけにも行かず、真空管の欠点を上手く化粧して隠していますが、今回比べたアンプはどれもこれも TRV-A300SER よりも遙かに高価な製品だけに、コストダウンの「音質への影響」は、Triode がいくら頑張っても完全に消し去れないように感じられました。



音が多くなると単音で感じられた高音のざらつきがほとんど感じられなくなります。この価格帯の真空管アンプとしては、楽器の分離は優れています。バイオリンの音はやはり少し細いのですが、真空管アンプらしい滑らかさとすっきりした透明感是十分に感じられます。トランジスタアンプに比べ、前後方向への音の広がりも大きいようです。しかし、価格を考えれば仕方がないのですが細かい音が完全にいきらず、そのためホール - トーンの空気感が思うように再現されません。結果として小さなホールで演奏されている室内楽のようなイメージでこの曲が鳴ってまいります。



Stingray でも感じたのですがこの曲の録音は、真空管アンプととても良くマッチするようです。A300SER の高域のざらつきはシンセサイザーのデジタルチックなエフェクトに隠れて、全く感じられなくなりました。真空管アンプとしてはやや高音が硬めですが、演奏は癖なく楽しめました。

### 音質テスト結果 Focal 1028Be と組み合わせて



Stingray 同様、真空管アンプとの相性は PB1i/Signature よりも 1028Be が圧倒的に良さそうです。Stingray の論評でも書いたように 1028Be の重いウーファーを真空管アンプは瞬時に止められず、音が終わった後もユニットはわずかに振動しているようです。しかし、それが上手い具合に音に適度な響きと余韻を与え、再生時に欲しい適度な響きが見事に演出されるのです。PB1i/Signature では乾いていたギターに音に響きと潤いが加わり、声のトーンの変化や情感の変化も大きくなって単調だった演奏が豊かさを増します。1028Be に搭載されるベリリウム・ツイーターの効果で「切れ味の鋭さ」と「アタックの芯(強さ)」がキチンと出て、高音がクッキリします。不足していた「鋭さ」と「響き」が加わって、実に楽しい音でオレンジペコが鳴りました。



スピーカーを 1028Be に変えると、中低音の響きが増して演奏のスケールが大きくなります。PB1i/Signature で気になった高音のきつさやざらつきも緩和されて、聴きやすい音に変化します。高域のざらつきが取れ中低域の厚みが増したことで全体的なバランスの偏りは気にならなくなりましたが、逆にそれまで問題にならなかった細部が気になってきます。オーディオシステムのグレードアップでも経験しますが、一つの問題を解決すると別な問題が発生するのです。高級なアンプで聞く音と比べると楽器の質感がやや低く、それが原因で演奏の芸術的ポイント(美的イメージ)が劣化します。悪くない音ですが、私が欲するヒラリー・ハーンの奏でるバイオリンの音のレベルには達していません。残念ながらこの音でヒラリー・ハーンを聴き続けるのは、聴感的ではなく精神的にちょっと辛い。彼女の演奏はもっと上手いからです。



ヒラリー・ハーンを聞いて 1028Be+TRV-A300SER の弱点に気付いてしまった後は、どんな音楽を聞いてもその部分が気になってしまいます。高音のざらつきによる楽器の音のレベルダウンと、それが原因で演奏が難に聞こえる部分です。しかし、それはアンプの限界を超える高性能なスピーカーを繋いでいることと、遙かに高価なアンプと比べていることが問題で、アンプそのものには大きな欠点はありません。TRV-A300SER はその価格を考慮しながら、適切なスピーカーと組み合わせればその魅力を引き出せるはずで、